

☆庄内町立余目第二小学校の実践

— テーマ「つながるいのち」(5年生の取り組み) —

※ 庄内町では全町あげて南三陸町との交流事業を通して、友好の絆を育んでいます。もともと小学校同士の交流から、その後町ぐるみの友好町関係にまで発展しました。東日本大震災の苦難にも「困った時には人は助け合う」心をもとに、友好関係が発展・継承されています。本校でも、それを基盤に、一人ひとりが大事な存在である気持ちを育む教育を大切にしています。



南三陸町立伊里前小学校との交流学習を通して

・「何かをしてあげる」のではなく、「一緒に楽しいことをする」というのがこれからの交流の目標だとぼくは思いました。

幼小交流 自ら心をつなぐ存在へ



後藤先生からの学びを詩にして発表しました。

(余目二小まつり 5年生の発表より)

おなかの中の赤ちゃんも生まれてくるために
一生けん命練習します。

- ・息をすうこと
- ・食べること
- ・笑うこと

今、ここにいる一人ひとりが、そんな練習を積み重ねて生まれてくるのがすごい、と思いました。



生命誕生

(生徒の感想より)

- ・子宮にいる時から優しさや幸せを感じていたことに驚いた。育ててくれた親や一緒に過ごしてくれる友達、そして自分自身をもっと大切にしたいと思う。
- ・好きな人ができて、相手のいいところをたくさん知ることができたり、相手のために頑張ったりできることはとても素敵で尊いことだ。

両校ともに後藤敬子先生(酒田市母子保健コーディネーター)を講師に招き授業を行いました。



授業後に受精卵と同じ大きさに開けられたカードに見入っていました。

☆三川町立三川中学校の実践

— テーマ「共に生きる」(全校共通) —

※ 三川中学校では…

後藤敬子先生からの性と命の講話、町全体での人権教育、職場体験学習を通して将来の夢や進路を共に考え、生涯に渡り、よりよい生き方を求め続ける教育を大切にしています。



・人権啓発フォーラムを三川中で開催し、全校生徒が参加。代表者からは差別・偏見など人間の持つ弱さに向き合い、困難を克服する知恵や努力の大切を、全校生徒に投げかけてくれました。

・町全体で、人権教育を通して一人ひとりが尊重され、思いやりのある社会づくりの一員として、学校と関係機関が連携した取り組みが展開されています。



チェリストの吉川よしひろさんがゲストに。聴覚障害者と同じ方法でチェロの音体験をした場面。「(響きか)やさしい感じがした。」